

# 沖縄県現地調査 2016

上杉 和央

京都府立大学文学部歴史学科3・4回生向け開講科目「地理学実習」、大学院生科目「地理学演習」では、合同での現地調査を実施しており、沖縄県内の市町村を1つ選択することを恒例としている。沖縄県を選択しているのは、歴史や文化が大きく異なる地域の調査を経験することで、沖縄の特性を知ると同時に、京都や地元の特性についても理解が深まることが期待されるからである。また沖縄戦に関わる慰霊碑・慰霊祭についての調査も継続的に取り組んでおり、そのため6月23日を含んだ5泊6日を設定することを常としている。

## 1. 今年度の調査概要

調査地は3回生が相談して決めることにしており、今年度は沖縄本島南部に位置する八重瀬町が調査地として選ばれた。調査には教員数名も参加した。

調査概要は次の通りである。

調査日：平成28年6月20日～25日

調査地：八重瀬町

調査員：上杉和央・川瀬貴也・藤本仁文（教員）

奥谷三穂（共同研究員）

作田貴啓・竹内祥一郎・西彬成（3回生）

上中理帆・壁谷奈央・喜馬佳也乃・近藤史昭（4回生）

加藤叡（研究生）

豊田祥子（修士1回生）

宮下遙（修士2回生）

島本多敬（博士後期2回生）

このうち、3回生は個人調査と慰霊碑・慰霊祭調査を担当し、4回生以上は沖縄の文化遺産調査および慰霊碑・慰霊祭調査を担当する。これらの調査成果は京都府立大学文学部歴史学科文化遺産学コース（上杉研究室）『八重瀬町』（2017）として刊行した。なお、大学院生と一部の学部生は文化的景観調査を実施したが、それらについては別項で紹介する。

## 2. 個人調査

作田は八重瀬町の小中学校の平和教育についての聞き取り調査を実施した。竹内は八重瀬地域の観光業の変遷を追った。西は八重瀬町の合併前後の動き、および八重瀬イメージについての調査をおこなった。

### 3. 慰霊祭調査

八重瀬町域にある慰霊碑についての調査のほか、6月23日に慰霊祭がおこなわれた字富盛区の慰霊祭に参加するとともに、参列者への聞き取り調査を実施した。

また、昨年度に引き続き、社会組織や同窓会組織による慰霊碑・慰霊祭の調査についても実施することにした。取り上げたのは、魂魄之塔、沖縄師範健児之塔、白梅之塔、梯梧之塔、南風原陸軍病院壕などである。

なお、本年度より上杉を研究代表とする「地理・歴史・人からとらえる沖縄の慰霊碑」(科学研究費 基盤研究C) 研究プロジェクトがスタートした。ここには川瀬・藤本・奥谷も参画しており、この研究プロジェクトにかかわる調査もおこなった。具体的には京都出身の沖縄戦没者を祀った「京都之塔」周辺の現地調査、およびその碑が建つ宜野湾市嘉数区民への聞き取り調査をおこなった。また、同じく本研究プロジェクトに参画している伊集守道氏、井口学氏とともに那覇市域の埋葬・慰霊関連施設の調査もおこなった。お忙しい中、聞き取りに応じていただいた皆さまに感謝申し上げます。



写真1 八重瀬町の歴史・文化財について講話



写真2 白梅之塔での慰霊祭の参列・調査



写真3 宜野湾市嘉数区での聞き取り調査



写真4 那覇市内にある外人墓地